令和２年度学校自己評価表（計画段階・　実施段階）

学校番号 69

福岡県立山門高等学校長　印

学　校　運　営　計　画　（４月）			評価（３月）
学校運営方針	教師としての行動指針の根幹である「魔法はない、愛情はある」を全ての教育活動に反映させ、生徒が将来、幸せな職業生活、家庭生活、社会生活を営むことができるよう、生徒一人一人の多様な希望進路にこたえ、資質・能力を一層伸ばしていくことができるステージに導き支える。山門高校での３年間の教育活動を通して、地域を愛し、地域に育てられたことに感謝し、地域の発展・充実のために貢献し、さらには全国、世界で活躍しようという意欲と能力、行動力（私がやる！）を持った人財（ネクストグローカルリーダー）を育てる。すべての教育活動が「生徒を“やる気”にさせる！」ことを実現するためのものになっている状況をつくり出すことが、本年度の本校の大目標である。		
昨年度の成果と課題	**本年度重点目標**	**具体的目標**	
○授業については、落ち着いた環境で行われており、授業改善に資するため、市内中学校の授業参観に延べ51名の職員が参加した。 ○学校行事も生徒が意欲的に取り組んでおり、また、市内小・中学校と連携した取組を中心に、多くの生徒が積極的にボランティア（地域貢献）活動に取り組んでいて、主体性を育む場となっている。 ○来年度は昨年度の成果を踏まえ、次の点を課題として学校運営及び教育活動に取り組むこととする。 ①臨時休業によって遅れた「時間を取り戻す」ことを大前提に教育活動を進める。 ②さらに地域連携を進め、これを柱とした「総合的な探究の時間」の充実を図る。 ③「観点別評価」を導入し、適切な運用に取り組むことにより授業改善を図る。 ④職員の「見極め力」を高め、生徒一人一人に合った多様な入試形態に導き支える。 ⑤理数コースの特色化を図るとともに、広報活動の工夫に努める。	A 「命あってこそ」－生命・健康、人権が大切にされる雰囲気、環境を整える。併せて「学びの場」にふさわしい「塵一つない」環境を整え	①生徒が誰でも安心、快適な学校生活を送ることができるよう、まず一人の職員として、学年として、教育相談委員会として、学校として、生徒一人一人への配慮に当たる。また、生徒相互の理解と配慮がなされるようにする。 ②保護者との密な情報交換と、職員間での情報共有に努め、適切な配慮をする。 ③生命、健康について取り上げる教科である「保健」・「家庭」の授業が、「生きる力」の基礎・基本を学ぶものとして大切にされるよう指導に当たる。 ④清掃状況には、学校の心の在り方が表れる。廊下に落ちた塵一つから学校にほころびが生じる。教師、生徒ともに校内に塵一つない、学びにふさわしい環境を整える。
	B 生徒の多様な進路希望を実現することができるよう、すべての生徒の学力を伸ばす。	⑤本校の特色であった「公務員・看護の山門」という言葉に象徴されるように、生徒の多様な進路希望に対して丁寧な指導に当たり、「全方位」的な進路実現を進めていく。 ⑥何のために、何が、どれくらいできるようになるのかということを意識した授業、学びを仕組む。「わかる、わかりやすい授業」を超えて、「わかるまで教える、学べる授業」、生徒が「納得できる授業」を仕組むために研鑽を重ねる。 ⑦「１８歳成人」を意識し、県（公）立学校が果たすべき本来の役割に全力を傾ける中で、授業を始め教育活動の改善・充実を図る。 ⑧習熟度別授業・クラス編成の成果を上げる。特に、成績下位層に対して大切に入念に指導することにより、「大切にされてる感」を醸成し、自尊感情を高め、成績上位層に対しても良い効果を与える。（クロールが得意な生徒にはクロールを、平泳ぎが得意な生徒には平泳ぎを。） ⑨観点別評価の導入により、生徒それぞれの良さ、「持ち味」を見落とさずに育てる。 ⑩「理数コース」の一層の特色化を図る。新学習指導要領の根幹にある「探究」をキーワードとして、学習活動を仕組む。
	C 危機管理意識を高め、「柔軟で強靭」な学校づくりに努める。	⑪管理職、主任・主事のリーダーシップのもと、常に先を見据え、危機回避の手立てを入念に講じる。 ⑫学年、分掌、教科、管理職間の報告・相談・連絡を密にし、高いレベルでの情報共有に努める。
	D 在り方生き方を考えさせる機会、失敗を恐れずにチャレンジさせる機会を学校の内外で仕組み、主体性、自律心や企画力、たくましさ（私がやる！）を育む。	⑬本校は４クラス規模であることから、生徒がリーダーになるチャンスに溢れている。「生徒が生徒に学ぶ、育てる」という教育活動を仕組み、生徒の背中を押し、「自分なりに」を超えて、もうひと伸びする機会、場面を工夫する。 ⑭特に、本校が「みやま市唯一の高等学校」であることを改めて強く認識し、市内小・中学校及び地元行政や企業・産業との連携（地域連携・地域密着）の中で生徒を育て、生徒が将来地域を支える人財となるよう、地元にとって本校が「頼りになる存在」として信頼を高めることができるよう、教育活動を充実させていく。 ⑮「主体性を育てる」ということについては、「放っておいて、さぁ！」というのでは、生徒は路頭に迷う。「透明の線路」を敷く（職員が導き支える）ことで、生徒が迷いながら、迷いながらも、主体性が育っていく。
	E 「速く、広く、深く」届く広報活動に努める。	⑯中学校や地域に「このような頑張り方をしている」という説明責任を果たすような情報の発信・収集に当たり、広報の基本は、我々職員の日々の姿と心得る。 ⑰父母教師会、同窓会、小・中学校など地域等との良好な関係を深める中で、本校の存在感が増していくと認識する。

分掌		評価項目	具　体　的　目　標	具　体　的　方　策	評価（３月）			次年度の主な課題
教務部	教務課	日常の生活リズムを整え空間的・制度的学習環境の整備を進め、学習面での生徒の自立を促す。	A 人権が大切にされる雰囲気を生みだし、「学びの場」にふさわしい環境を整える。	②一定の配慮の必要な生徒について、健康管理課と連携し、具体的な配慮について教員間で確実な情報共有を行う。				
				③「保健」・「家庭」に限らず生命・健康に関わる単元を扱う教科に、教科横断的な取組の授業計画への導入を促す。				
				④生徒、職員が共に清掃に取り組み、自ら学びの場の環境を整え、勤労や貢献の大切さを共有する。一日の活動を清掃で終えるという意識を醸成する。				
			B 生徒の多様な進路希望を実現するための学習環境の整備	⑥新年間指導計画を導入し、何がどのようにできれば評価されるのかを明示し、今まで以上に説明可能な評価を目指す。				
				⑦⑧⑨多様な生徒を評価する観点別評価の定着と教務業務の整理のため教務規定を改定する。				
				⑧新学習指導要領の導入に対応し、本校の目標に合致した柔軟で効率的な教育課程の検討を継続する。				
			D 自立した学習者の育成	⑬試験範囲や評価方法の提示など学習係との連絡を密にし、活動を活発化させる。				
				⑮生徒の自己評価、さらにそれに基づく学習の改善を学習評価への組み入れるよう促す。				

教務部	企画課	「魔法はない、愛情はある」の教師としての行動指針に基づいて、教員組織、儀式の企画、父母教師会と連携した取組、中学校や地域と連携した広報活動を行う。	A 「学びの場」にふさわしい「塵一つない」環境を整える。	④職員室、更衣室、職員昇降口等の「塵一つない」環境を整える。				
			C 「柔軟で強靭」な学校づくりに努める。	⑪管理職、主任・主事のリーダーシップのもと、常に先を見据え、危機回避の手立てを入念に講じる。				
				⑫学年、分掌、教科、管理職間の報告・相談・連絡を密にし、文書管理・行事の実施を確実に行う。				
			D 生徒にチャレンジをさせる機会を持たせるべく、中学校や地域、父母教師会と円滑な協力体制を築く。	⑭本校が「みやま唯一の高等学校」であることを強く意識し、本校の「頼りになる存在」としての信頼を高めることができるよう、中学校や地域と連携して教育活動を行う。				
			E 「速く、広く、深く」届く広報活動に努める。	⑯中学校や地域に「このような頑張り方をしている」という説明責任を果たすような情報の発信・収集に当たる。また、広報の基本は、我々職員の日々の姿と意識して教育活動に当たる。				
				⑰父母教師会、同窓会、小・中学校など地域等との良好な関係を深める中で、本校の存在感を高めるような広報活動を行う。				
生徒部	生徒指導課	生徒が安全安心な学校生活をおくれるように愛情を持って生徒指導を行い、志望実現のため各種行事等で資質・能力を高める。地域の行事等にも積極的に参加させる。	A 安全教育の充実を図る。	①学校生活アンケート、個人面談で生徒の状況を把握し、教育相談委員会で情報の共有を図る。				
				②生活指導係を中心に校内の巡視計画を策定し、生徒理解と配慮に目を配る。				
				②交通安全教育の充実を図り、バイク通学者には定期的に集会を行い安全への意識を高める。				
				②部活動を計画的に実施し、活動計画・状況をホームページに掲示する。				
				②防災訓練を実施し、防災への意識向上を図る。				
				②街頭補導や街頭登校指導を行うことで事故等の未然防止を図る。				
			B 多種多様な進路実現のため様々な行事で成功体験を持たせる。	⑤大運動会に企画・立案を生徒会を中心に行うことで成就感をもたせる。				
				⑤柏友祭（文化祭）を２年新生徒会で実施することで愛校心・地域への感謝の気持ちをもたせる。				
				⑤生徒会活動（委員会活動）を主体的に行うことで自主性を育む。				
			C 危機管理意識の徹底	⑪危機管理マニュアルの周知の徹底。				
				⑪校内巡視を計画的に実施し、生徒の動態把握のみならず危険箇所の点検等を行う。				
				⑪外部からの生徒に情報を適切に迅速に把握し対処する。				
				⑫生徒指導部会で各学年の生徒指導担当者からの情報を共有し初期対応を迅速にし指導にあたる。				
				⑫外部団体（生徒指導協議会・学警連）、警察等と連絡関係を密にし、問題の事案等の早期発見、指導を行う。				
			D 生徒リーダーの育成	⑬大運動会、文化祭の行事を通してリーダー性を育成していく。				
				⑭みやま市の行事等を生徒に提示し、積極的に参加させる。				
				⑮部活動への積極的加入を促し、加入率８０％を超えることで、部内でのリーダー育成を図る。				
生徒部	健康管理課	生徒が安全で、健康的な学校生活が送れるように、環境整美や疾病の早期発見と自主自立的な健康管理ができるよう保健指導を行う。	A 教育活動の場にふさわしい環境に努める。	①生徒の精神的健康を望ましい方向に支援するため、毎月１回教育相談を行い、充実・強化を図る。				
				①生徒にも教員にも常に開放的な保健室運営を行う。				
				①早期の対応、場合によりSC等へ繋げる対応により、生徒一人一人を大切にする指導・支援を行う。				
				②「保健だより」を月に一度発行する。また、状況に応じて臨時号を発行し、ＨＰにアップする。				
				②防火避難訓練を実施し、防災意識を高める				
				③各教科においても年間指導計画を念頭に置きながら、保健に関する理解を深める指導を推進する。				
				④生徒・教職員全員で清掃美化に努める（「毎日がオープンスクール」という意識と状態を保つ）。				
			C 情報の共有を図る。	⑫保健に関する情報があれば迅速に管理職に連絡・相談し、全職員に情報を発信する。				
				⑬毎朝クラスで健康観察を行い、必要に応じて全職員に情報共有を図る。				
			D 生徒が生徒に学ぶ環境づくりに努める。	⑮毎朝保健委員が中心となり健康観察を行う。				
				⑮保健委員に対して定期的に健康教育を行い、それをクラスに発信していく。				
				⑮月に一度、清掃点検・液体せっけんの点検を行う。				
				⑮手洗いの励行を促す（アルコール消毒は菌を減少させる。手洗いは菌を消滅させる効果が一番である）。				

進路部	進路指導課	「総探」をコアカリキュラムとして自ら深く考え、自分の課題を振り返りながら行動できる生徒を育てる。生徒一人ひとりの多様な進路実現のために新入試の様々な入試形態に対応した積極的な情報共有や進路指導を行う。	A 生徒の多様な進路希望を実現することができるよう、生徒の状況や最新の情報を職員・保護者と共有する。	②１、２年次は全体的な状況を中心として、３年次は生徒一人一人の状況を中心として模試分析を行い、保護者・生徒と共有する。				
				②時期に応じたホットな内容で、年３回の「進路だより」を発行し、様々な情報を共有する。				
				②例年に捉われない「進路のしおり」を発行するとともに、電子化したものをホームページ上に掲載する。				
				②定期的な進路希望調査を実施して、年３回全職員で共有する。				
			B 生徒の多様な進路希望を実現することができるよう、生徒や進路希望に応じた取組を行う。	⑤生徒の実態に応じて課外・土曜セミナー・補講を柔軟に実施する。				
				⑤生徒の主体的な活動や特性を踏まえたうえで個別に対策を講じ、国公立大学の総合型選抜入試・学校推薦型入試で１０名以上合格させる。				
				⑤進路希望に応じた「ふれあい看護体験」やインターンシップ、フィールドワークを積極的に推進する。				
			D 在り方生き方を考えさせる機会、失敗を恐れずにチャレンジさせる機会を学校の内外で仕組み、主体性、自律心や企画力、たくましさ（私がやる！）を育む。	⑬⑭生徒が“探究の基礎”を身につけ、主体的に探究できるように第１学年「総探」を計画的に運用する。				
				⑬⑭生徒が主体的に思考を深め、自分が考えたプロジェクトを堂々と発表できるように第２学年「総探」を計画的に運用する。				
				⑬自らの希望進路に向けて主体的に行動できるように第３学年「総学」を計画的に運用する。				
				⑬⑭生徒が主体的に活動するために、「やま盛ポイント」を運用し改善していく。				
				⑬生徒が自らの行動を振り返り、次の行動につなげるために「キャリアパスポート」を計画的に運用する。				
				⑮公務員指導の在り方を改善しながら、「公務員の山門」の型を体系化する。				
				⑮３年間の小論文指導を改善しながら、「小論文指導」の型を体系化する。				
				⑮生徒自身が自らの長所や特性、課題を意識しながら進路を深く考えるように、「HR」の進路学習を実施する。				
	研修課	生徒の資質・能力を伸ばし、意欲的に行動できる人財を育てるために、授業力をつけるとともに、教師としての資質の向上を図る。	B 生徒の学力向上のために、授業改善に取り組み、授業力向上を図る。	⑥生徒が「納得できる授業」を目指し、全職員が年に１回以上研究授業を行う。				
				⑥授業アンケートを年に２回行い、分析と課題の明確化を通じ、授業改善を図る。				
				⑥校内での職員研修、若年者研修、エキスパート研修を計画的、組織的に行う。				
				⑥専門研修やさまざまな校外での研修を職員に案内し、参加を募り、研鑽の機会を増やす。				
			D 生徒が主体的に挑戦する意欲と態度を育む。	⑬⑮校内の図書委員会活動や、地区や支部での図書委員研修会などへの生徒の積極的参加と企画・運営を支援する。				
第一学年		生徒一人一人が安心して楽しく学校生活を送ることができるよう、職員一人一人が愛情と情熱を持って教育活動に当たる。 また、多様な進路希望の実現のために適切なコース選択ができるよう支援する。 何事にも意欲的に取り組み、そこから何かを学ぼうとする探究心溢れる生徒の育成を目指す。	A 生徒一人一人が安心して学びに向かうことができる環境及び雰囲気を整える。	①こまめに面談を実施し、生徒の状況や心境の変化を把握するとともに、保健室や健康管理課との情報共有に努める。				
				①「学校生活が楽しい」という思いをすべての生徒が持てるよう、日ごろから生徒の声に耳を傾け、学校生活アンケートの該当項目で肯定的評価を得る。				
				②保護者と密に情報交換を行い、生徒の情報に関して学年職員間での情報共有を図る。				
				④日ごろから黒板、窓、掲示板などの学習環境整備に努め、生徒自身に美化意識を持たせる。				
			B 生徒一人一人に応じた学習指導を行い、全ての生徒の学力を伸ばす。	⑤日ごろの生活の様子や面談をとおして生徒の適正と能力を把握し、一人一人の進路に応じた文理選択を支援する。				
				⑥「生徒が納得する授業」の実現に向けて、教材研究を行い授業の質の向上を図る。				
				⑧成績上位層の引き上げに努める。１月進研模試で３教科総合偏差値５０以上４０名、５５以上１０名を達成する。				
				⑧成績下位層の引き上げに努める。１月進研模試で３教科総合偏差値４０以下２０名以内を達成する。				
				⑧模試分析会や学年会において生徒に関わるすべての職員間で成績の推移を把握し、各教科の指導の連携を図る。				
			C 危機管理意識を高め、関係部署との密な情報共有を図る。	⑫毎朝の健康観察を徹底し、健康管理課と情報を共有しながら、生徒の健康管理に従事する。				
				⑫生徒や保護者に対して健康管理についての連絡を徹底し、学校での様子と家庭での様子を相互に共有する。				
			D 様々な学校行事を通して、生徒の主体性や自立心を育成する。	⑬学校行事、校外研修、ボランティア活動などに積極的に参加するよう促し、全ての生徒が体験的活動を行えるようにする。				
				⑭進路指導課と連携し、生徒の“探究力”を伸ばし、生徒自らが課題を発見し、その解決に向けて探究できる能力を育成する。				
				⑭職員が「指導しない」のではなく、生徒が主体的に活動できるように「事前の準備や打合せ」を徹底する。				

第二学年	愛情と情熱をもって、親身に全ての教育活動を行うことで、生徒自身に自尊心を持たせ、自身の将来に夢と希望が持てるようにさせる。また何事にも経験・体験をさせ、失敗と成功を繰り返させながら、自己の在り方生き方を考え、社会に対して責任を持てるような有為な人物を育てる。また自己と地域社会の繋がりを実感させ、地域に愛される山門高生に育てる。	A 生徒一人一人を大切にし、安心・安全な学年作りを目指す。	①アンケート等で見つかった気になる点については早急に生徒と面談を行い、必要な際は健康管理課と情報共有を行って対応するなど、生徒が安心して学校生活を送る環境が整っていることを、しっかりと生徒にも示していく。				
			②生徒情報を保護者と共有していく。生徒の指導すべき項目を保護者に伝える際には、保護者の気持ちを十分に汲み取って配慮しながら伝え、場合によっては養護教諭や生徒指導主事の助言を仰いで行う。				
			③担任・副担任ともに考査前の指導では、「保健」はもちろんのこと、全ての教科において全力を尽くすよう説諭する。また入試至上主義や学力至上主義に陥らず、生徒の学ぼうとする意欲や一人の人間としての在り方生き方を尊重し、全ての教育活動が複合的に人間形成に関わっていくことを意識する。				
			④清掃時間には学年団全員が必ず掃除場所について指導していくこと。日常的にゴミが落ちていれば教員が率先して拾うことを意識すると共にまた教室の掲示物は整え、教卓の中も整理しておく。				
		B 第一希望の進路実現のため、生徒の意志を尊重しながら、すべての生徒の学力を伸ばす。	⑤第一希望尊重の進路実現という基本的精神を学年団で共有して指導に当たり、授業以外の時間帯（課外・長期休業中課外・セミナー）については進路指導課と連携しながら多様な進路希望に対応していく。				
			⑥各教科のルーブリックを掲示するなどして、学力の目指すべき段階を共有させる。また授業者側の連携を取るために、学年会や模試分析会で授業者の悩みや現状の進め方の共有を図る。				
			⑦１８歳成人を目前とした１７歳（最後の未成人）が、どういう心構えで生きていくべきか、その社会性について学年集会やクラス行事を通して学ばせる。				
			⑧模試分析や学年会での成績確認の際、習熟度別に成績の推移を確認し、授業担当者が各成績層に対して適切な指導ができているか、振り返りを容易にできるような仕組みをつくる。				
			⑨教科における観点別評価の導入とともに、学年団の生徒指導においても生徒一人一人の個性を大切にできるよう、学年団で意識の共有を図る。				
			⑩理数コース担任や理数コースプロジェクトの助言を仰ぎながら、学年団でも理数コースをバックアップできるようにしていく。修学旅行や学年行事等でも理数コースの特色を出せるような研修や発表の場を考えていく。				
		C 様々な問題に対応した危機管理のできる学年作りを目指す。	⑪⑫正副担任・学年団・学年主任・各委員会・管理職といった各セクションが、お互いに密に連絡・報告・相談を行い、個が抱え込まずに集団で事に当たれるような雰囲気を醸成していく。				
		D 学校の中核の学年として、様々なことにチャレンジをさせながら、失敗をしても諦めず、経験から学ぼうとする生徒を育てる。	⑬校外研修や生徒会活動、ボランティア活動を積極的に呼びかけ、学年の全生徒が何かしらの経験ができるようにさせる。				
			⑭⑮探究活動や各行事をとおして、地域に根差し地域に愛される生徒を育成していくことと、そうした教育活動を生徒に任せっぱなしで行うのではなく、生徒と学年団がお互いに十分に打ち合わせた上で実行させていく。				
第三学年	生徒が、自身の幸せな職業生活、家庭生活、社会生活の在り方とはどのようなものであるかを考え、それにつながる進路の実現を果たすことができるよう、生徒に寄り添い導き支える。 また、生徒一人ひとりが学校全体の最上級生としての自覚を持ち、自分の良さ・持ち味を生かして主体的に活動できる場面をつくることで、生徒の自尊感情を高め、「やる気」が次々につながるプラスの循環を生み出し、周囲に感謝し貢献しようとする精神を養う。	A 生徒一人一人と丁寧に向き合い、生徒が大切にされていると感じられる環境を作る。生徒の状況を職員・保護者と共有し、信頼関係の中で生徒を卒業まで支えていく。	①こまめに面談や調査を行い、生徒の状況や心理の変化を把握する。				
			②保護者との密な情報交換と、職員間での情報共有に努め、適切な配慮をする。				
			②保健室との連携を図る。				
			④掲示物や棚の中の整頓、黒板の溝や窓枠まで塵を残さない清掃に努める。				
		B 生徒の資質・能力や進路希望に応じた取組を行い、生徒の第一希望での進路実現を目指す。	⑤課外・土曜セミナー・補講を、生徒の進路希望に応じた内容で実施する。				
			⑤総合型選抜入試・学校推薦型入試を含む多様な入試に対応するための大学説明会・研修会への参加および過年度の進路実績の分析をふまえた検討会を行う。				
			⑤国公立大学の総合型選抜入試・学校推薦型入試で１０名以上合格を目指し、生徒の主体的な活動や特性を踏まえて各大学に応じた個別指導を行う。				
			⑤医療・看護系志望者、公務員志望者の指導について、情報を共有しながら、個でなく組織的に行う。				
			⑥生徒の進路実現のために、何が、どれくらいできるようになるべきかを示し、「納得できる授業」を目指す。				
			⑥⑧面談内容と模試分析を担任と教科担当者で共有して、個々のクラス・生徒に応じた指導を行う。				
		C 新型コロナウイルス感染症や新入試等に対し、危機管理意識を持って対応する。	⑫学年・分掌・教科・管理職間の報告・相談・連絡を確実に行い、情報共有に努める。				
			⑫生徒・保護者に対して、学校側の対応やその変更等について丁寧に連絡するとともに、家庭側の変化（家計の急変やそれに伴う進路の変更等）を正確に把握し、適切な支援を行う。				
		D 在り方生き方を考えさせる機会や、生徒会中心に企画し３学年がリーダーとして運営する機会を仕組み、達成感と「他のこともやれる！」という「やる気」を持たせる。	⑬大運動会等の学校行事では、生徒の企画・運営を尊重し、準備段階で陰から支える。				
			⑬大運動会等の学校行事では、全員に自分の良さ・持ち味を生かして、一つ以上の役割を持たせる。				
			⑮大運動会等の学校行事では、職員側の打ち合わせ・情報共有を素早く行い、生徒を導き支える。				
			⑮全員に小論文指導、志望理由書指導を行い、社会の中での在り方生き方を考えさせる。				

理数コース	生徒自身が自分の持つ資質や能力を理解し、それに適した進路選択を行えるよう学年間を超えた指導を実施する。 また、理数コースの特色を今一度見直し、それを地域に効果的に発信できるような広報体制を整える。	A 理数コースのすべての生徒が自己肯定感を感じられるような取組や行事を企画する。	①学年の中だけの指導ではなく、学年間を超えた立体的な指導を目指すために、定期的に理数コースプロジェクトの会議を開き、各学年の情報の共有を図る。				
			①探究活動や理数コース独自の取組を通して生徒一人一人が自分の良さを認識し、意欲的に活動できるよう支援する。				
		B 進路実現に必要な情報の収集と交換を徹底し、一人一人が主体的に進路を選択できるよう支援する。	⑩進路指導課と連携しながら、各学年団で理数コースを支援できる体制を整備し、探究活動やその他の学校行事において理数コースの特色を出せるような研修の充実を図る。				
			⑩理数コースの縦の交流を定期的に設定し、３学年合わせて山門高校の理数コースであるという意識を醸成する。				
		E 理数コースの特色や日頃の様子を「速く、広く、深く」広報する体制を整える。	⑯理数コース通信を年に６回発行し、理数コースの理念や取組について地域に深く浸透させる。				
			⑯理数コース通信の作成に生徒も携わることで、客観的に自分たちの取組を振り返る機会を設ける。				

＜評価の基準＞　A;達成できた　B;ほぼ達成できた　C;あまり達成できなかった　D;達成できなかった